

Jゼミの中間報告会が開催されました！

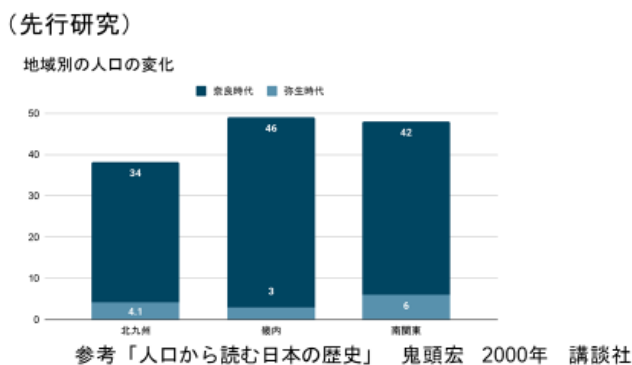
●各班、これまでの研究成果を報告しました

7月25日(火)、人文科学・社会科学・国際学の3分野に分かれ、各班が作成したポスターを用いて報告会を行いました。

金沢大学の小浦寛先生、福井大学の遠藤貴弘先生、公立小松大学の小原文衛先生を助言者に迎え、多くの建設的なアドバイスを頂きました。生徒同士での質疑応答も充実したものになり、互いに刺激しあえる良い機会になりました。今後の研究がより一層充実したものになることが大いに期待できそうです。

(以下に報告会で使用した各班のスライドの一部とテーマ設定の動機、研究方針を紹介します。)

人文科学A班:「奈良時代の人口の分布・推移から見る地方と都」



人口の推測値をもとに最古の都である平城京の人口と外交の要所であった太宰府、同時期に大幅な人口増加を見せた南関東の人口を比較して古代における畿内の重要性を調べる。
また、現代は国の中心が畿内から関東へ移動しているので、畿内に関して現代と古代の違いについて探究する。

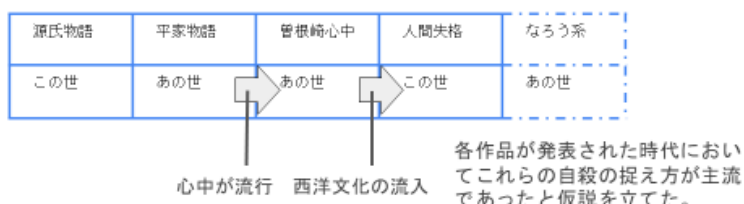
人文科学B班:「自殺の捉え方について」

仮説

自殺の心理的要因を

- ・あの世ベクトル (あの世で幸せに)
- ・この世ベクトル (苦しいこの世から逃げ出す)
- ・人のため

の3種と仮定



テレビタレントの自殺に対してネット等ではいろいろなコメントがあった。そこから自殺には捉え方次第でいろいろな意味づけができると考えた。

実際に人がなぜ自殺するのかを調べることは難しい。しかし、文学作品における自殺は作者の伝えたい自殺が描かれ、自殺の様々な捉え方を収集できると思ったので研究テーマにした。

人文科学C班:「年中児に人気がある絵本について」

先行研究 21冊の絵本を読みいくつかの要素についてまとめた結果

- ・オノマトペが21冊中20冊で用いられていた。
 - ・セリフが21冊中21冊で用いられていた。
 - ・主人公が21冊中16冊で動物や乗りもの、食べものなど人間でなかった。
- (ミリオンぶっく2023/TOHAN株式会社 対象年齢3,4歳から選出)

《気になった点》

主人公が困難や敵を乗り越える際に重要となるのが自分自身の成長であるか仲間との協力であるかで割れていた。

困難や敵を乗り越える描写がある絵本に研究対象を絞り、それを乗り越えるために重要となるものは自分自身の成長か、仲間との協力を考える。多くの絵本を読んで分類し、物事を乗り越える描写を一部変更した絵本を実際に4歳児に読み聞かせ感想を聞く。

人文科学D班:「笑いはストレスにどう影響するのか」

今後の展望

- ① ストレスを与える ストレスup!
(例)小テストを受けさせる
絶対に解けないクイズを出す
- ② 面白い動画と面白くない動画を見せる
- ③ ストレスが解消されたかアンケートを取る

MBTIとストレス解消の関係を調べようと思っていた。しかし、MBTIの先行研究は少なかった。そこでストレス解消に焦点を当てると笑顔が効果的であるという先行研究が見つかったので調べることにした。初めにストレスを与え、その後に笑いを喚起することでストレスがなくなるのかを調べる。面白いと感じて顔が自然と笑顔になることを笑いと現状では定義している。

人文科学E班:「インバウンド観光における成功戦略」

現段階で考えられる仮説

先行研究から導き出せるインバウンド対策

- ・ブランド化を進めている
- ・多言語に対応している
- ・交通アクセスが良い
- ・フリーWi-Fiを使用できる
- ・ICTを活用している
- ・モノ消費よりコト消費に焦点をあてている



個人客も問題なく観光できるための戦略をとっていると考えられる。

今後の展望

インバウンドの増加のために、より有効な戦略があるか考えていきたい。そして、身近な地域に当てはめて、自分たちでその地域にあった有効な戦略を考えていきたい。

また、なぜ、訪日外国人は、モノ消費よりコト消費を好む傾向があるのかについて考えていきたい。

課題を探す過程で、観光に興味を持った。調べを進める中でインバウンドという言葉を知った。そこで、日本におけるインバウンド観光に対する取り組みを追求することにした。インバウンドの増加に成功している地域について、事例をあげ、その要因について調べ、インバウンド観光の成功戦略について考える。

人文科学F班:「日本の幸福度を上げる」

先行研究③

日本人の寄付が少ない理由

- ・7割以上の日本人が寄付したお金がきちんと使われているの不安を感じているから。
- ・日本人の間では寄付を集める慈善団体に対する不信感も極めて高いから。
- ・自己責任感が強い人ほど寄付意識が弱いから。



心理学に興味があり、近年増加傾向にある精神病から「幸せとは何か？」について考えたいと思った。

日本は幸福度における寛容度のランキングが低い。(World Happiness Reportより)そこで寛容度の一つの基準である寄付を日本人はどのくらいしているのか？

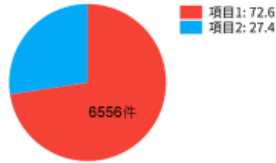
どうすれば沢山するようになるのか？この研究を通して考えていく。

社会科学G班:「技能実習制度の廃止によって日本における外国人労働者の労働環境は改善されるのか？」

先行研究 技能実習制度の実態について

「全国の労働基準監督機関において、労働基準関係法令違反が疑われる実習実施者に対して9,036件の監督指導を実施し、その72.6%に当たる6,556件で同法令違反が認められた。」

労働基準関係法令違反が認められた実習実施者



実習生からの申告

- ①賃金・割増賃金の不払
- ②支払われる賃金額が最低賃金額未満
- ③解雇手続の不備

(厚生労働省「技能実習生の実習実施者に対する監督指導、送検等の状況(令和3年)」)

技能実習制度とは、本来は外国から技能実習生を招き、技術を学ばせる制度を指す。しかし、雇用側が実習生を「便利で安い労働力」と認識し、制度を悪用している側面は否めない。現状は実質的な目的が労働力確保になっていると考える。外国人が正常に働くことのできる環境づくりが急務ではないだろうか。



社会科学H班:「松高生の「幸福」とは何か」

先行研究①幸福感と自由時間の関係

- ・基本：自由時間が増えるにつれて幸福感も向上する
例外：・約2時間後→横ばい
・約5時間後→低下
- ・自由時間が過剰にありすぎると逆に幸福ではなくなる可能性
→適度な自由時間を確保し、目的を持って過ごすべき

出典：Journal of Personality and Social Psychology

小松高校生は何をもって幸せと考えているのか研究する。2020年度のユニセフの研究によれば、日本の若者、特に高校生は世界に比べて幸福度が低い。私達、小松高校生も同じような傾向が見られるか明らかにしたい。

国際学I班:「アメリカの戦争から紐解く国民性の変遷」

今後の展望

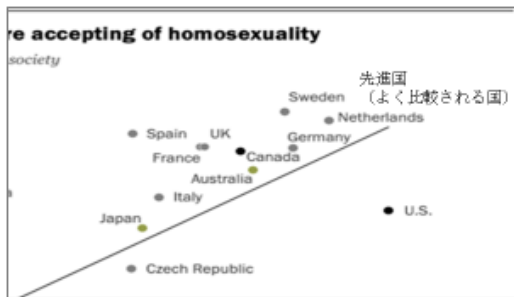
- ・民衆史を読む
- ・これまで調べてきた戦争の流れから国民性に関係がありそうな出来事などをピックアップし、それらから考察していく
- ・一つ一つの戦争の繋がりを意識して見ていき、国民性の移り変わりを調べていく
- ・先行研究がなく、戦争に関する記述のみから国民性を客観的に考察していくことが難しいことに気がついたため、違った視点から調べる

国際関係について興味がある者が集まった。特に国際対立・紛争に注目した。各国の国民性や価値観の違いが、それぞれの対立や紛争の原因なのではないかと考えた。また、国民性是对立・紛争ごとに変化していると考えた。そこでアメリカを対象に対立・紛争ごとの国民性の変遷を研究する次第である。

国際学J班:「他国と比べて日本がLGBTQ+を受け入れられていないのはなぜか」

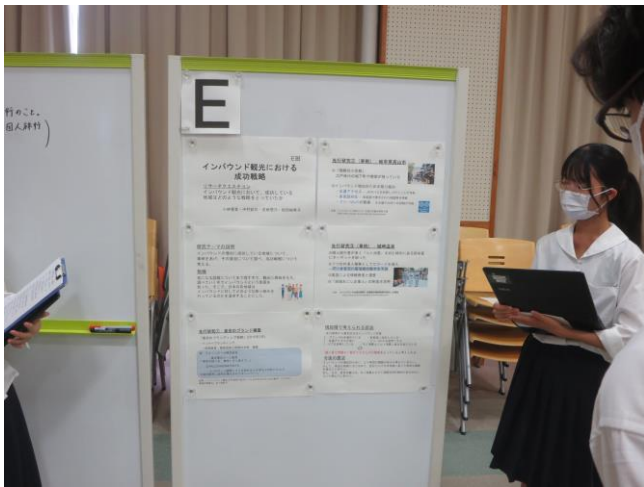
しかし

先進国というくりで見ると日本はまだまだ受け入れが進んでいない国



何が要因なのか

2018年、ある衆院議員の「LGBTは生産性がない」という発言に疑問を持った。そのような考えを持つ人がいることに驚いたからだ。日本はあまりLGBTQ+に関して理解が進んでいない国だろうか、という問いを立て、日本でLGBTQ+に対する理解度を高めるにはどうすべきか研究していく。



今後の予定 (変更になる可能性もあります)

9月26日(火)～27日(水) 関東ヒューマンセミナー

- 1.目的 首都東京で政治経済の中心業務を担う公的機関や幅広く国際的な活動を展開している機関や企業を訪ねることにより 生徒の視野を広げ、将来日本の中心的な役割や国際的な立場を担うことについて考えさせることを目的とする。
- 2.参加者 2年生 人文科学コース(21H) 男子14名 女子26名 計40名
- 3.旅程(予定)

第1日目 9月26日(火)

小松空港集合6:45

小松発 → 羽田空港 → 東京大学 → (昼食) → 東大Fair Wind企画・学内見学 → 宿所へ
 7:40 8:50 (A B班) 日本銀行 14:00 17:00 18:00
 (C D班) 朝日新聞本社 宿所(機山館)で本校卒業生と懇談

第2日目 9月27日(木)

宿所発 → (A班) 外務省 → (B班) 東京証券取引所 → (昼食) → 羽田クロノゲート → 羽田空港 → 小松空港
 9:00 (C D班) 野村総合研究所 (ヤマト運輸) 15:45 17:05 18:05
 9:25 14:00 15:30 小松空港解散